

宮川庚子(みやかわ かのえこ)記念研究財団 30周年記念肝炎ワーックショップ
MMRF 30th Anniversary Hepatitis Workshop (賛助会員) の報告

2025年11月27日

本財団設立30周年を記念する肝炎ワーックショップ(賛助会員等対象)は令和7年11月15日(土)午後、品川シーズンテラス ホールにおいて本財団評議員の脇田隆字先生(国立健康危機管理研究機構 JIHS 副理事長)及びSMF アクバル先生(愛媛大学 消化器内分泌代謝内科学)の座長により開催されました。



「アジアの肝炎」というテーマで我が国在住の研究者6名による講演(下記)がありました。

[写真: 財団理事長、座長・演者の先生方(前列)、財団役員・賛助会員等参加の先生方(後列)]

①広島大学大学院医系科学研究科疫学・疾病制御学のKO KO先生(「Progress Toward Elimination of Mother-to-Child Transmission of Hepatitis B: Experiences from Cambodia and Burkina Faso」)、②金沢大学・医学部・システム生物学の李影奕先生(「The Role of DOCK11 in Facilitating HBV Retrograde Trafficking through the Trans-Golgi Network」)、③熊本大学大学院生命科学研究部 消化器内科学のYAN ZHAOYU先生(「Analysis of a Novel HBV Regulatory Mechanism via RNA-Binding Proteins」)、④神戸大学大学院医学研究科 感染制御学分野の鄧琳先生(「B型・C型肝炎ウイルス感染とレドックス制御」)、⑤JIHS 国立感染症研究所 ウィルス第二部&安全管理研究センターの鄭シン先生(「HAV感染マウスモデルを用いた抗 HAV 候補薬の評価」)及び⑥JIHS 国立感染症研究所 ウィルス第二部の李天成先生(「E型肝炎ウイルスの基礎研究」)から、それぞれ研究の最前線を多角的に紹介するご講演と質疑応答が行われました。

最後に座長の脇田先生より、「アジアから日本に来られている先生方の疫学及び基礎研究についてのレベルの高い成果の講演であった。今後、B型肝炎をどう克服するか、C型肝炎ウイルス排除後の対処、A型・E型の経口肝炎ウイルスの対応」などについて総括されました。

なお、本財団賛助会員の入会をご希望の方は、本ホームページ「お問合わせ」より件名に「賛助会員入会希望」とご記入の上、ご連絡ください。本財団は令和7年4月1日、引き続き東京都より寄附金(賛助会費含む)の税額控除適用法人としての証明を受けましたので会員の皆さんには税制上の優遇措置をお受けいただくことができます。